

(仮称)中山製鋼所船町工場  
新製鋼施設建設事業に係る  
環境影響評価準備書

大阪市環境影響評価専門委員会  
説明資料

株式会社中山製鋼所

## 事業の種類

■ 本事業は、**大阪市環境影響評価条例**の対象事業に該当

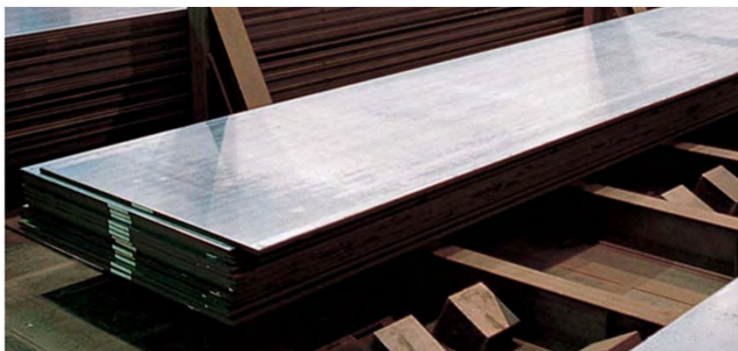
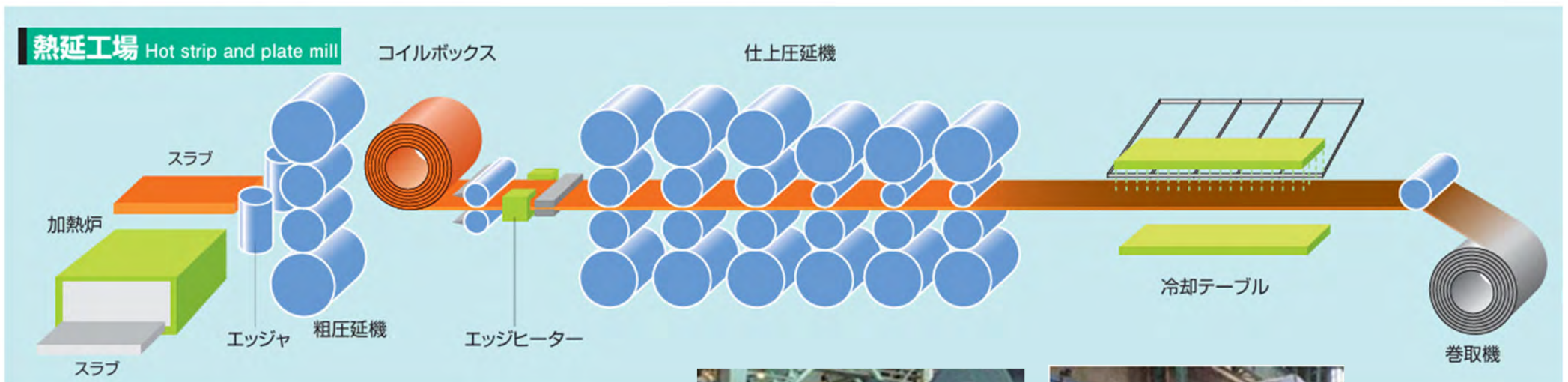
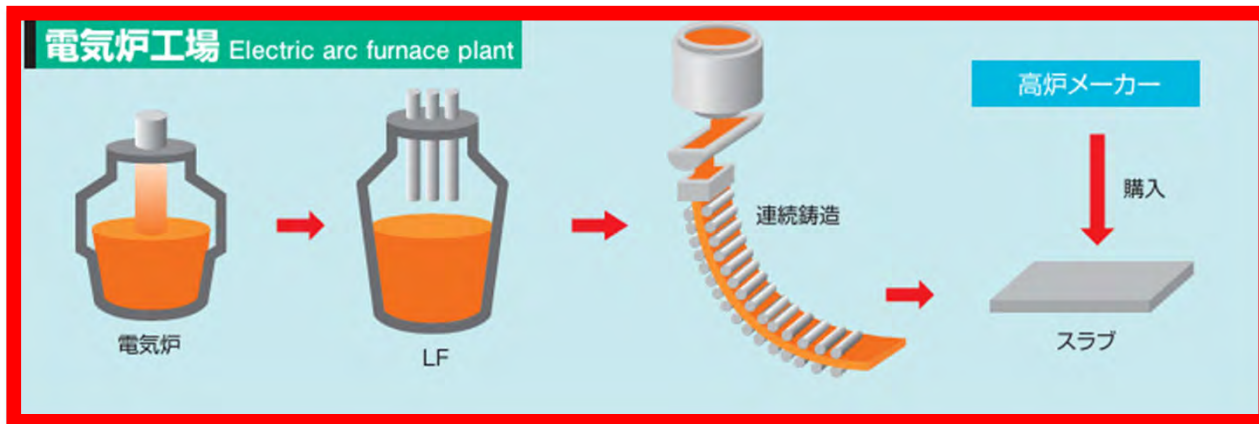
事業の種類	内容	規模
工場又は事業場	工場又は事業場の新設・増設	<ul style="list-style-type: none"><li>・大気汚染防止法に規定するばい煙発生施設等を定格で運転する場合において使用される燃料・原料の重油換算量毎時4キロリットル以上</li><li>・水質汚濁防止法に規定する特定施設から排出される1日平均排出水量10,000立方メートル以上</li></ul>

## 事業の概要

事業の名称	(仮称) 中山製鋼所船町工場新製鋼施設 建設事業
事業の種類	大気汚染防止法（昭和43年法律第97号） 第2条第2項に規定するばい煙発生施設を設 置する工場の新設の事業

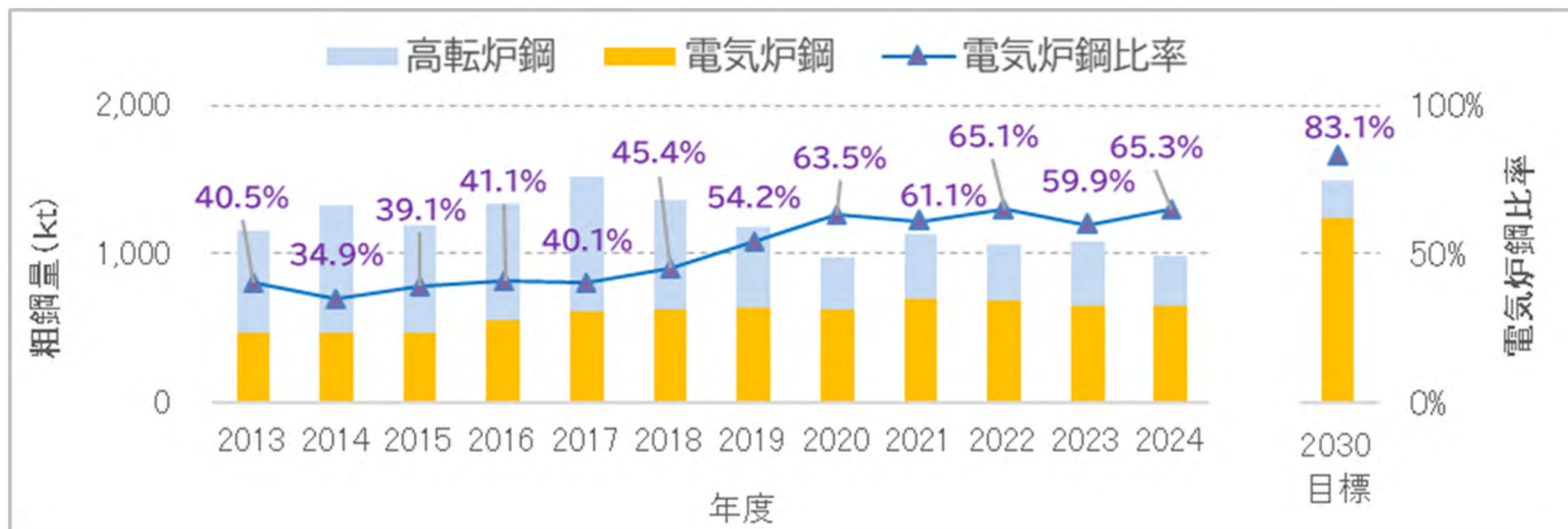
# 事業の概要

## 製造工程



## 事業の概要

## ◆ 自社の粗鋼使用量と電気炉鋼比率の推移



## 事業の概要

### ◆自社のサプライチェーンを含めた2013年度及び2030年度のCO2排出量 内訳と差異及び比率

項目			2013年度 ①実績kt-CO <sub>2</sub>	2030年度 ②計画kt-CO <sub>2</sub>	対2013年度 差異 ②-①kt-CO <sub>2</sub>	対2013年度 比 ②/①
粗鋼の 生産と 購入	自社生産の電気炉鋼 (生産量)	Scope 1,2	136.6 (414,849t)	292.4 (1,078,200t)	155.8 (663,351t)	2.14 (2.60)
	太陽光発電の 電力自社使用	—	0	-0.4	-0.4	—
	購入した高転炉鋼 (購入量)	Scope3	1399.7 (686,433t)	396.8 (194,600t)	-1002.9 (-491,833t)	0.28 (0.28)
	購入した電気炉鋼 (購入量)	Scope3	36.7 (51,652t)	101.6 (142,900t)	64.9 (91,248t)	2.77 (2.77)
	小 計		1573.0 (1,152,934t)	790.4 (1,415,700t)	-782.6 (262,766t)	0.50 (1.23)
その他	自社生産の鋼材 (生産量)	Scope 1,2	191.0 (1,104,154t)	191.8 (1,418,500t)	0.8 (314,346t)	1.00 (1.28)
	再生可能エネルギー 由来の電力へ切替	Scope2	0	-139.0	-139.0	—
	購入したコイル等 (購入したコイル量)	Scope3	289.3 (61,576t)	265.6 (1,800t)	-23.7 (-59,776t)	0.92 (0.03)
	小 計		480.3	318.4	-161.9	0.66
	合 計		2053.3	1108.8	-944.5	0.54

## 事業の規模及び施設概要

施設	現状（新電気炉稼働に伴い廃止）		将来	
	電気炉	LF	電気炉	LF
所在地	大阪市大正区船町二丁目		大阪市大正区船町一丁目	
処理能力	100t/時	75t/時	215t/時	215t/時
原料の量を重油換算した量	$(100\text{t/時} + 75\text{t/時}) \times 0.08\text{kl/t}$ $= 14.0\text{kl/時}$		$(215\text{t/時} + 215\text{t/時}) \times 0.08\text{kl/t}$ $= 34.4\text{kl/時}$	
	事業実施により増加する重油換算量が、廃止分を差し引いた20.4kl/時（ $\geq 4\text{kl/時}$ ）となり、条例対象事業となる。			
稼働	年間稼働日数 運転時間	324 日/年 24 時間/日	年間稼働日数 運転時間	294 日/年 24 時間/日
変圧器容量	56MVA	15MVA	115MVA	32MVA

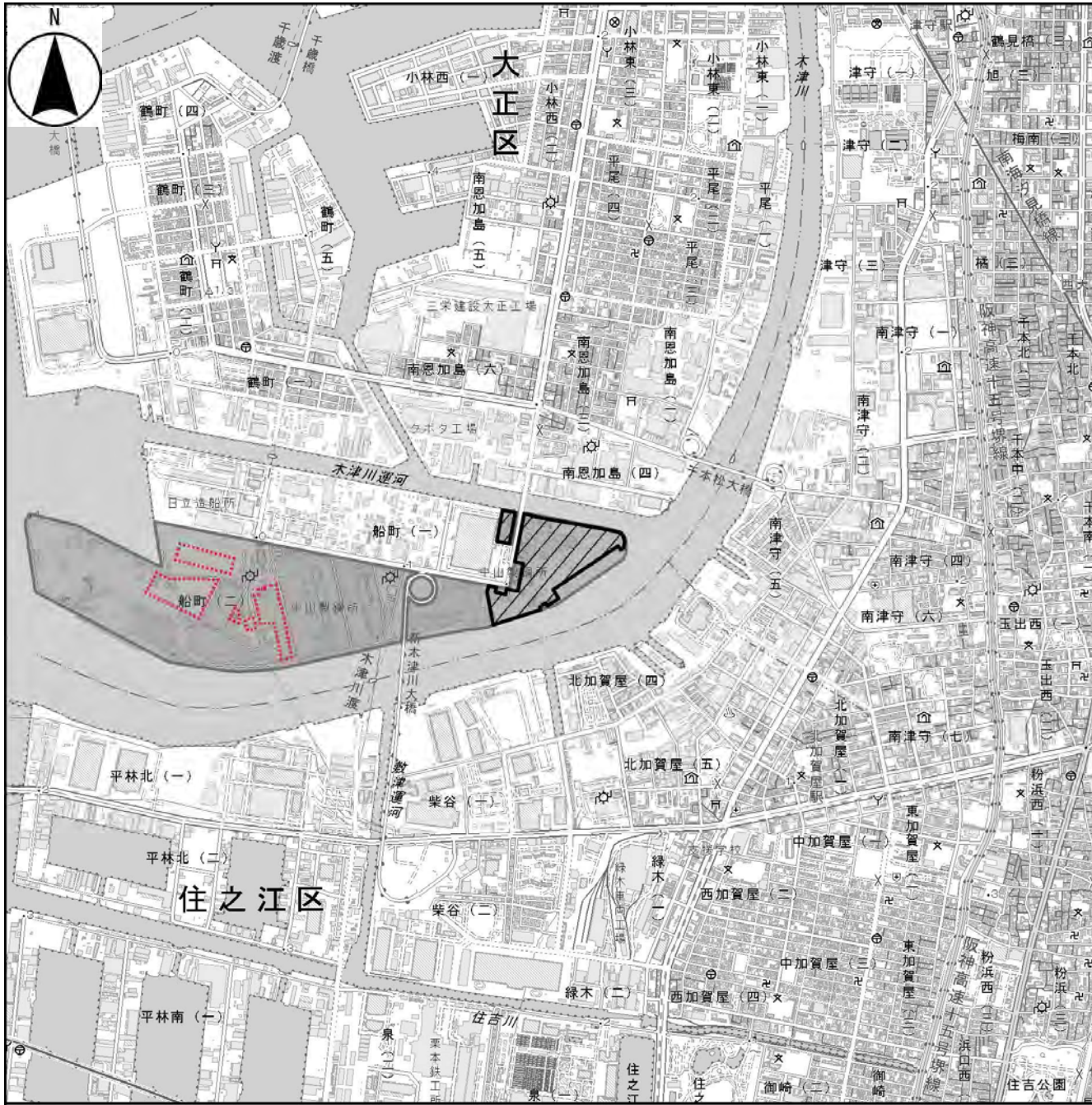
LF:取鍋精錬設備

## 事業の規模及び施設概要




施設	現状（新電気炉稼働に伴い廃止）		将来	
	電気炉	LF	電気炉	LF
使用燃料(1) /消費量	都市ガス13A	1,200N m <sup>3</sup> /時	都市ガス13A	1,300N m <sup>3</sup> /時
使用燃料(2) /消費量	無煙炭	7,200t/年	無煙炭	20,000t/年
使用燃料(3) /消費量	コークス(粉)	3,700t/年	コークス(粉)	10,000t/年
排出ガス量	767,400N m <sup>3</sup> /時		1,521,400N m <sup>3</sup> /時	
排出ガス温度	50℃		50℃	
排出口高さ	23.2m		27m	
排水量(河川水) (生活排水)	間接冷却水 7,870 m <sup>3</sup> /日 20 m <sup>3</sup> /日		間接冷却水 0 m <sup>3</sup> /日 20 m <sup>3</sup> /日	
主な設備	スクラップヤード（屋外） 連続鋳造設備（連鋳機） ろ過式集塵機 水処理設備 鋳片置場		スクラップヤード（屋内） 連続鋳造設備（連鋳機） ろ過式集塵機 水処理設備 鋳片置場	

LF:取鍋精錬設備

# 事業計画位置

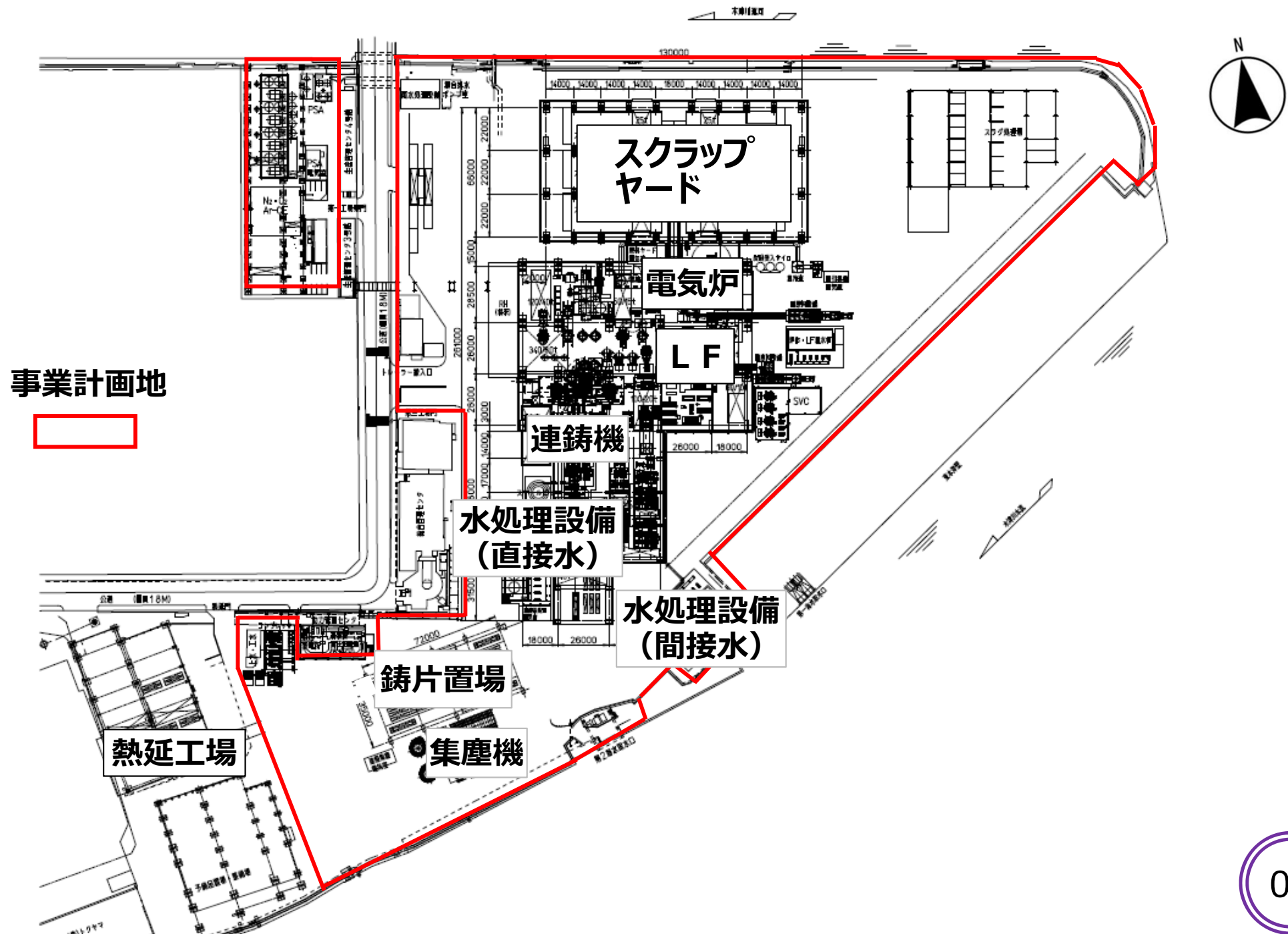


凡例

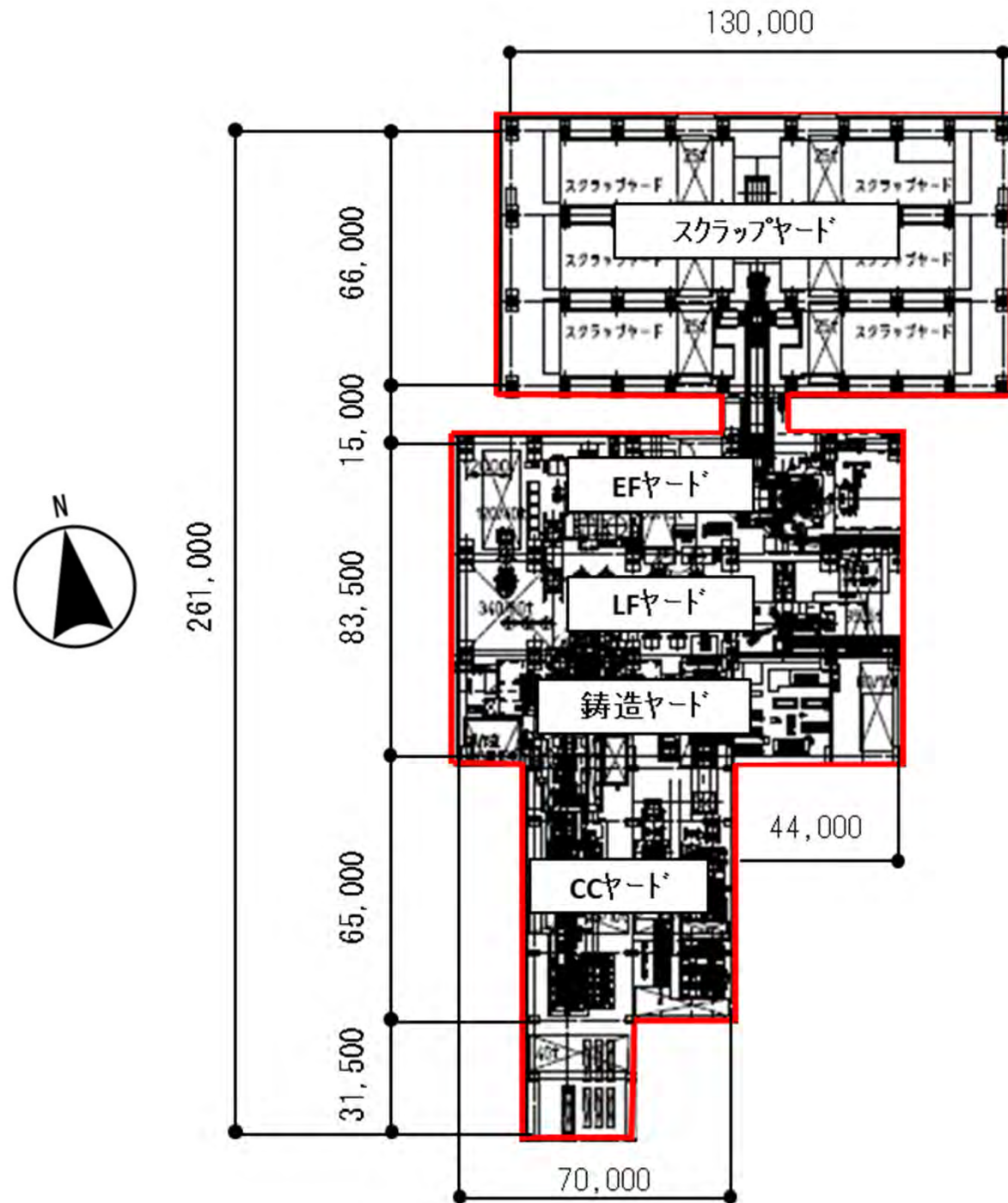
-  事業計画地
-  中山製鋼所船町工場
-  現状の事業地

この地図は、国土地理院の電子地形図25000をもとに作成しました。

# 施設配置計画



# 主要建屋平面図

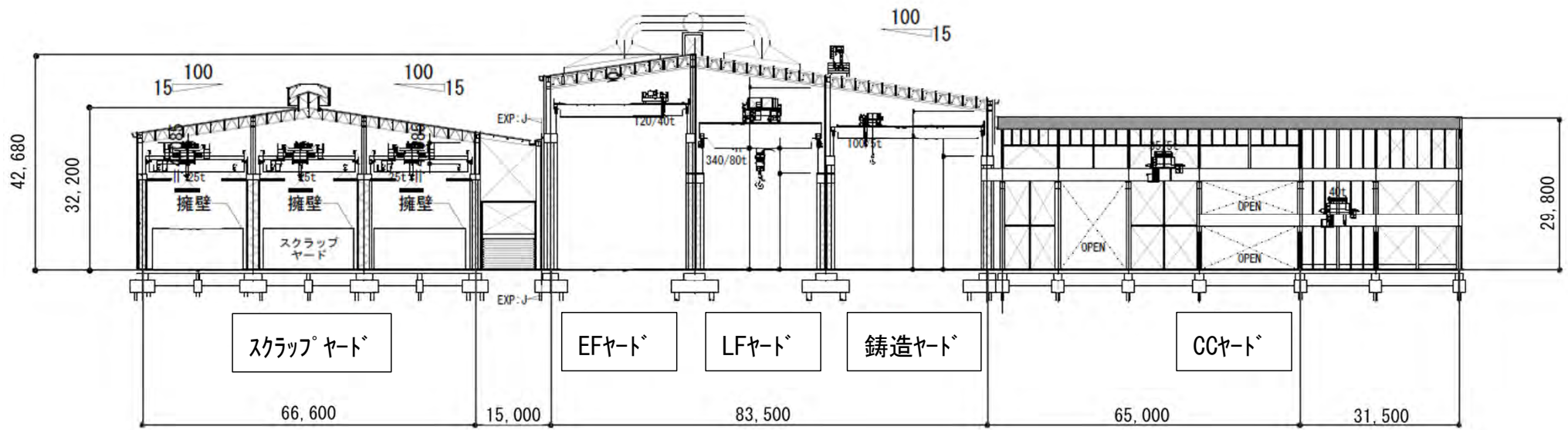


主要建屋

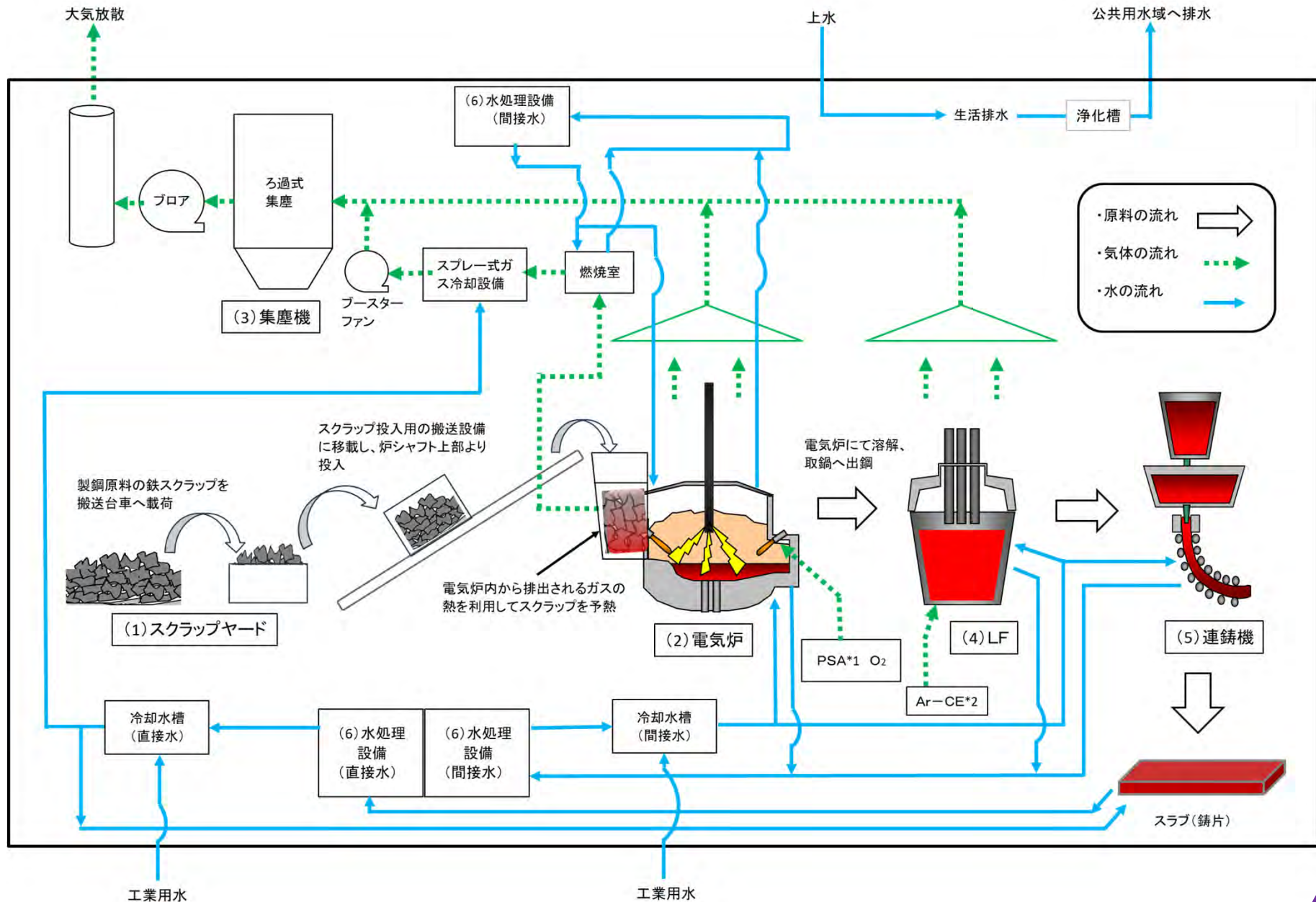
( ) 内は主要設備を設置するヤード名称

- ・スクラップヤード (スクラップヤード)
- ・電気炉 (EFヤード)
- ・LF (LFヤード)
- ・連鑄機 (鑄造ヤード、CCヤード)

# 主要建屋断面図

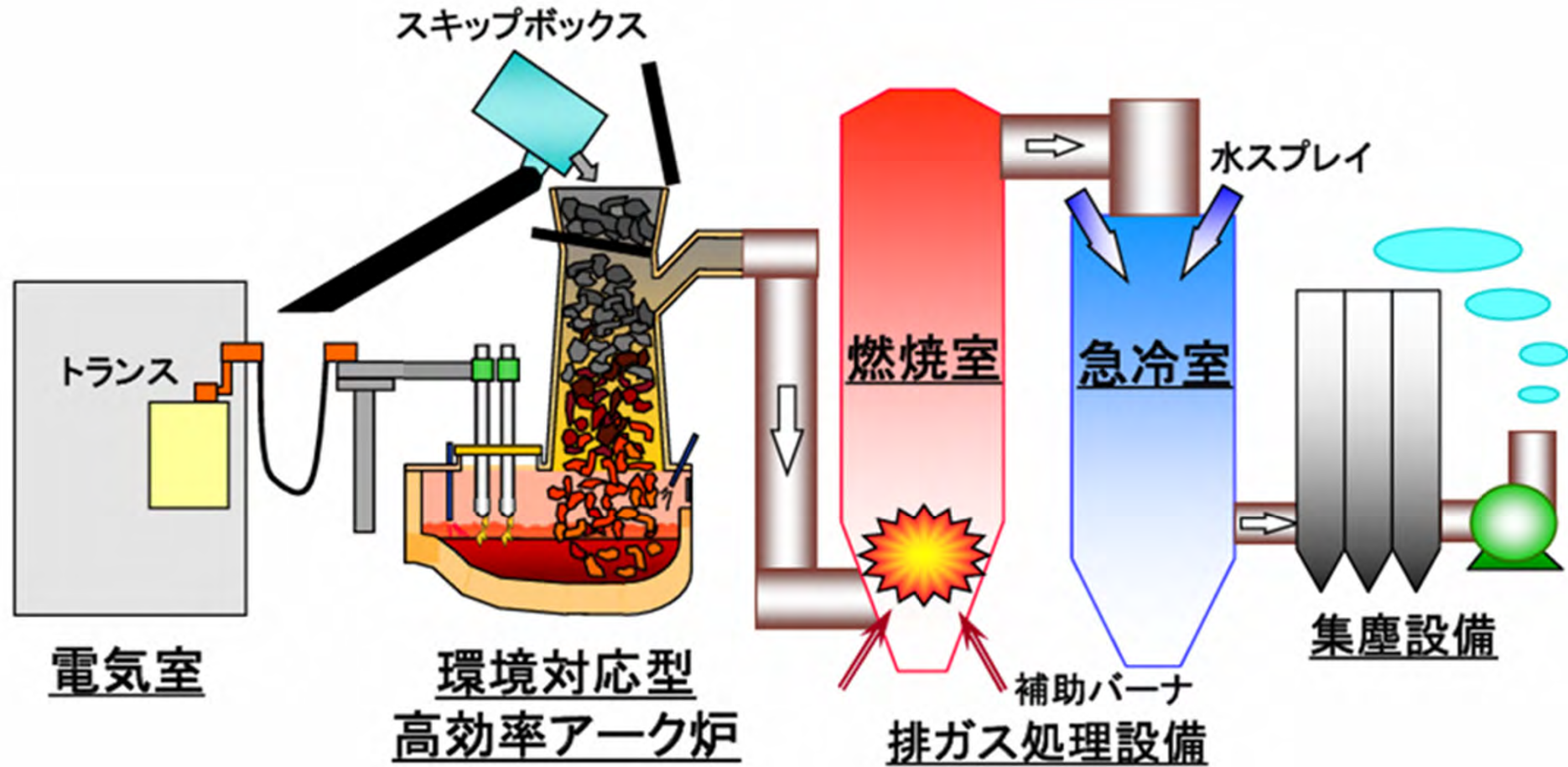


# 設備フロー



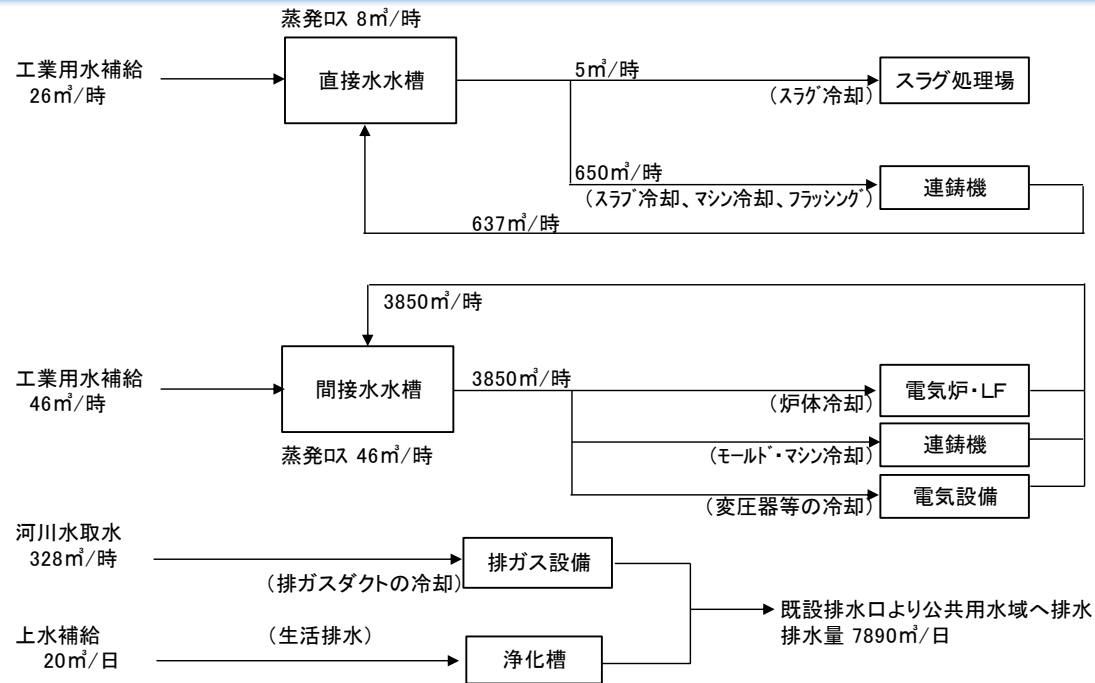
# 設備フロー

## 排気フロー

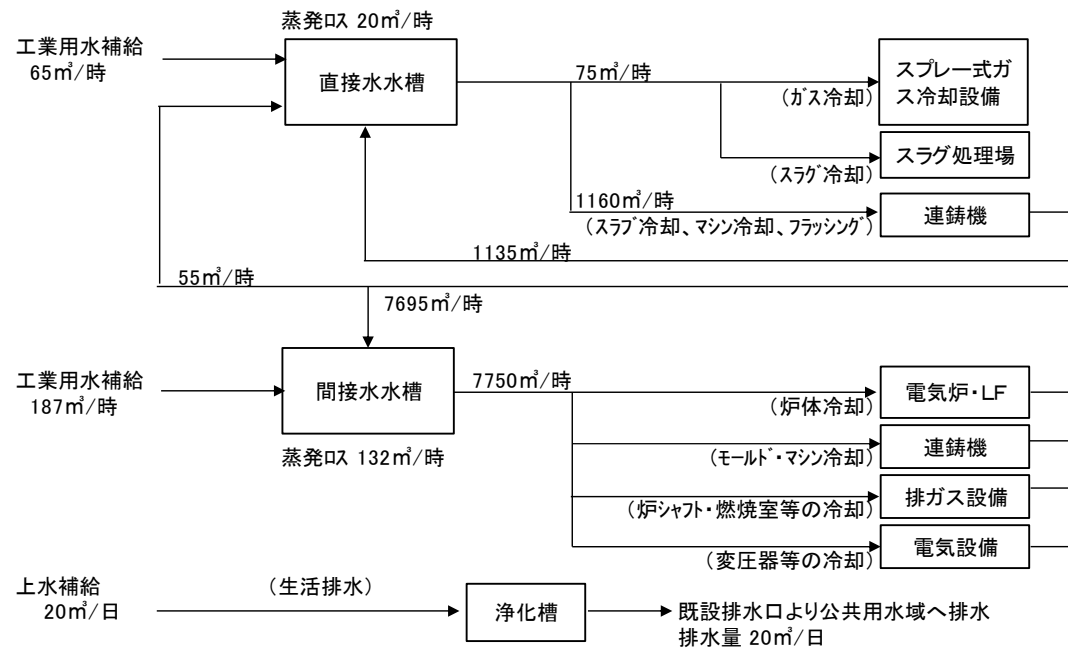


# 現在と将来の供用時の水フロー

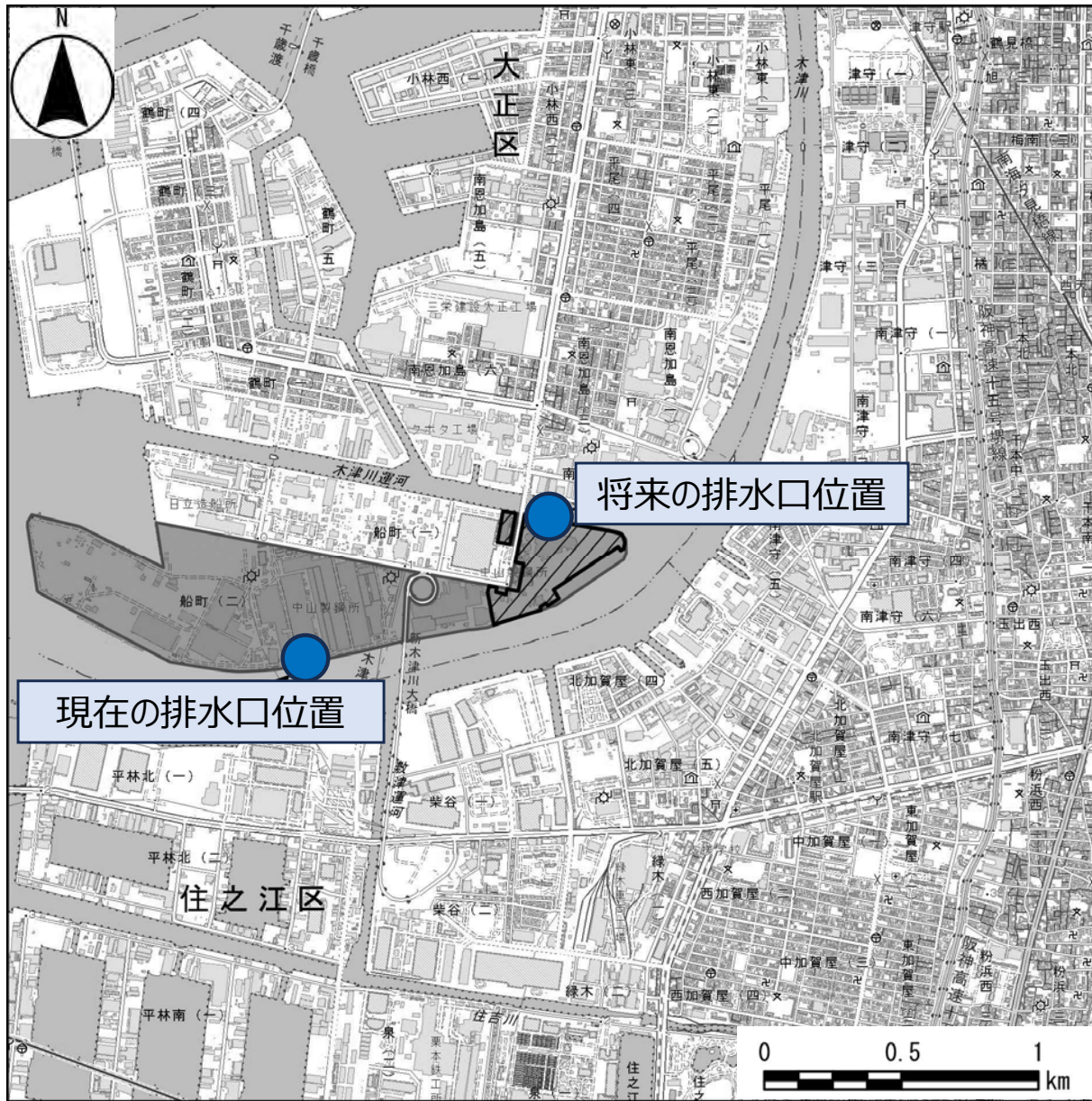
## 1) 現在の水使用フロー






## 2) 将来の水使用フロー



# 現在と将来の排水口位置

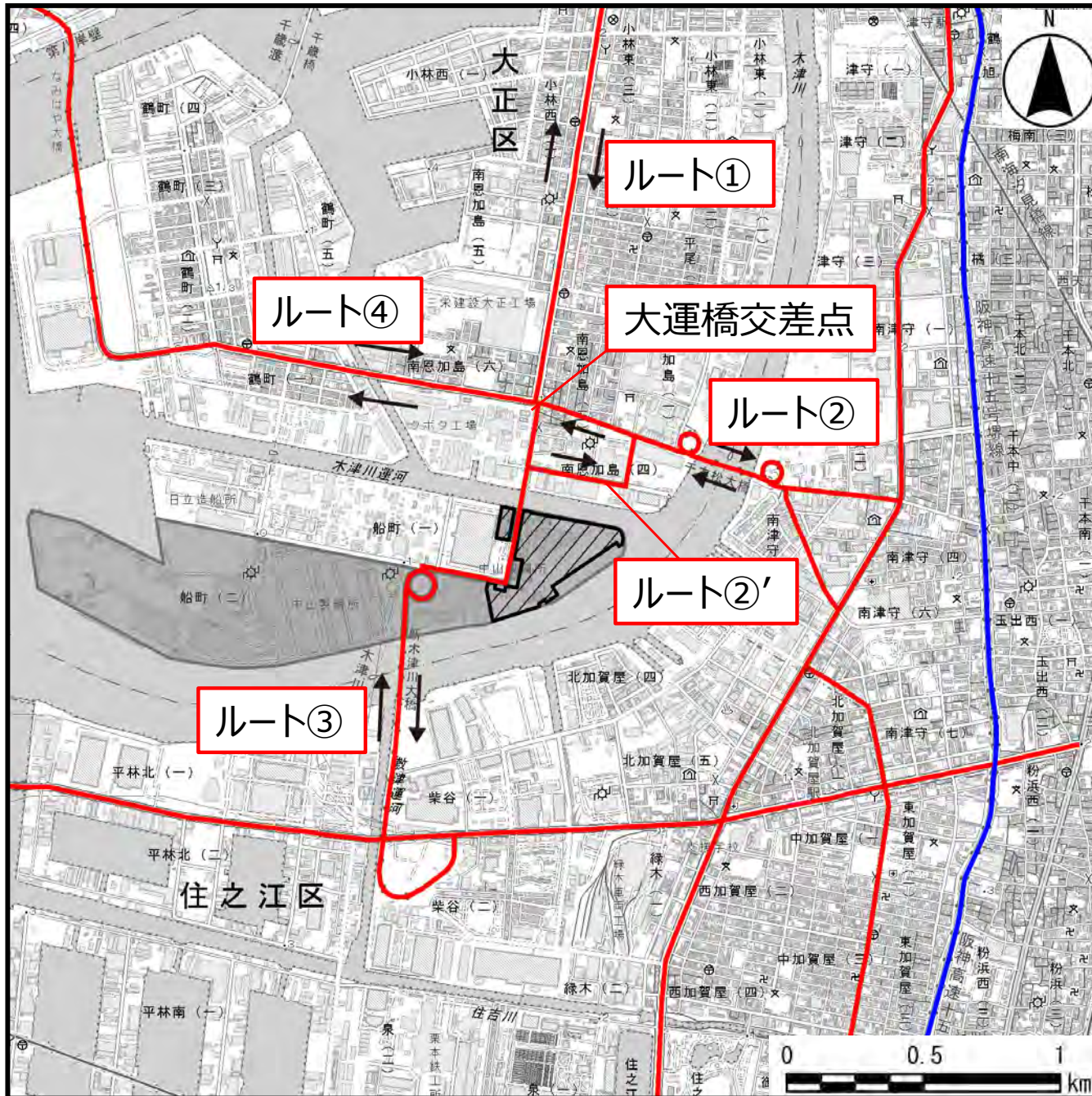


凡例

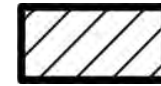
-  事業計画地
-  中山製鋼所船町工場
-  将来・現在の排水口位置

この地図は、国土地理院の電子地形図2500をもとに作成しました。

# 供用時の関連車両の主要な走行ルート



凡例



事業計画地



中山製鋼所船町工場



搬出入経路 (一般道路)



搬出入経路 (高速道路)

ルート① 一般府道大阪八尾線

ルート② 一般府道大阪港八尾線

ルート③ 一般府道住吉八尾線

ルート④ 一般府道大阪港八尾線

※ルート②'は迂回路を示す

この地図は、国土地理院の電子地形図25000をもとに作成しました。

# 事業計画地現地状況

①北西部（左側 公道、奥側 木津川運河）



②北東～東部（奥側 木津川）



# 事業計画地現地状況

③西部（解体予定 発電所）



④南部（解体予定 倉庫）



# 事業計画地現地状況

⑤南西部

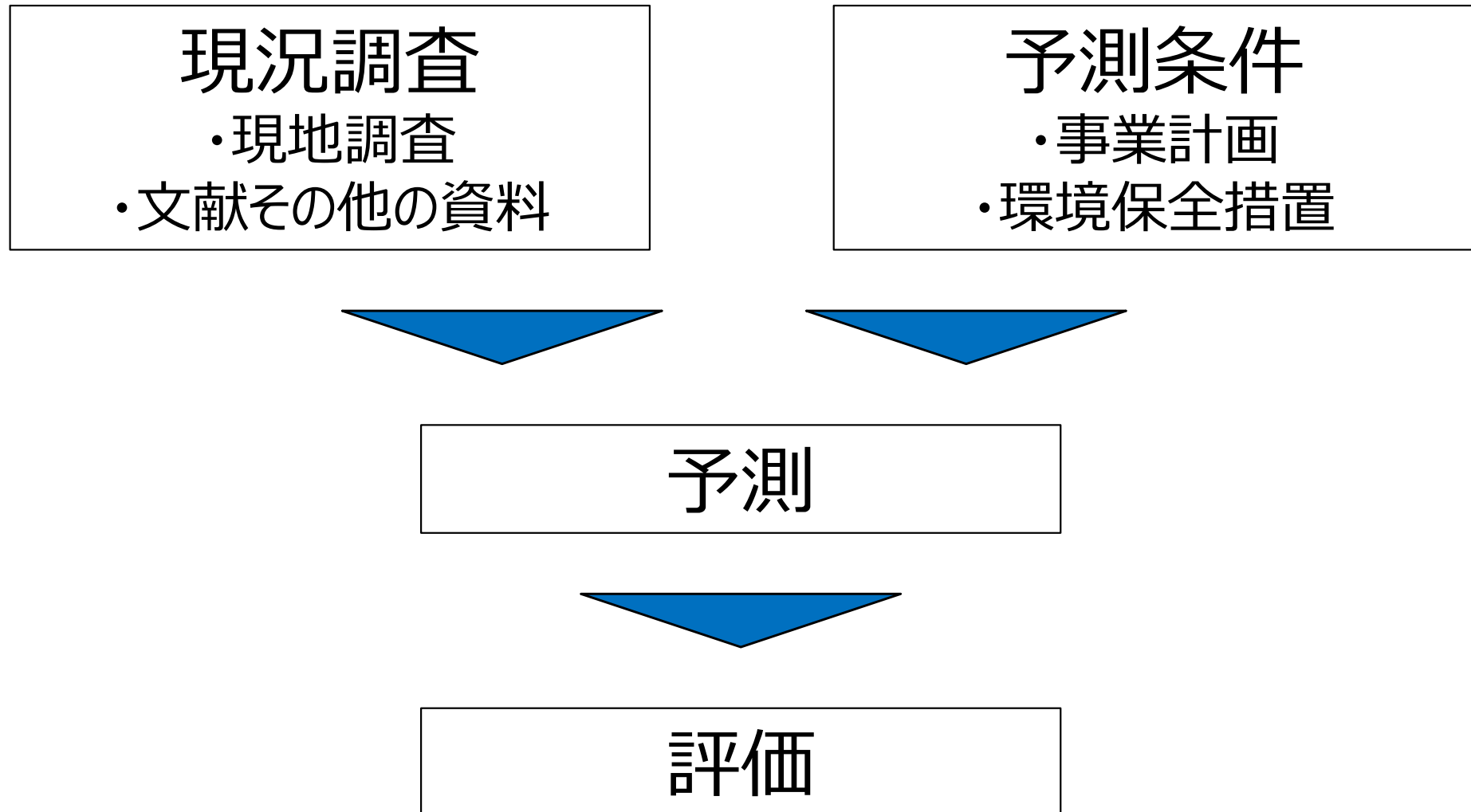


⑥事業計画地間公道（南側より撮影）





## 環境影響評価の流れ



## 環境影響評估項目

I 大氣質

V 廢棄物・残土

II 土壤

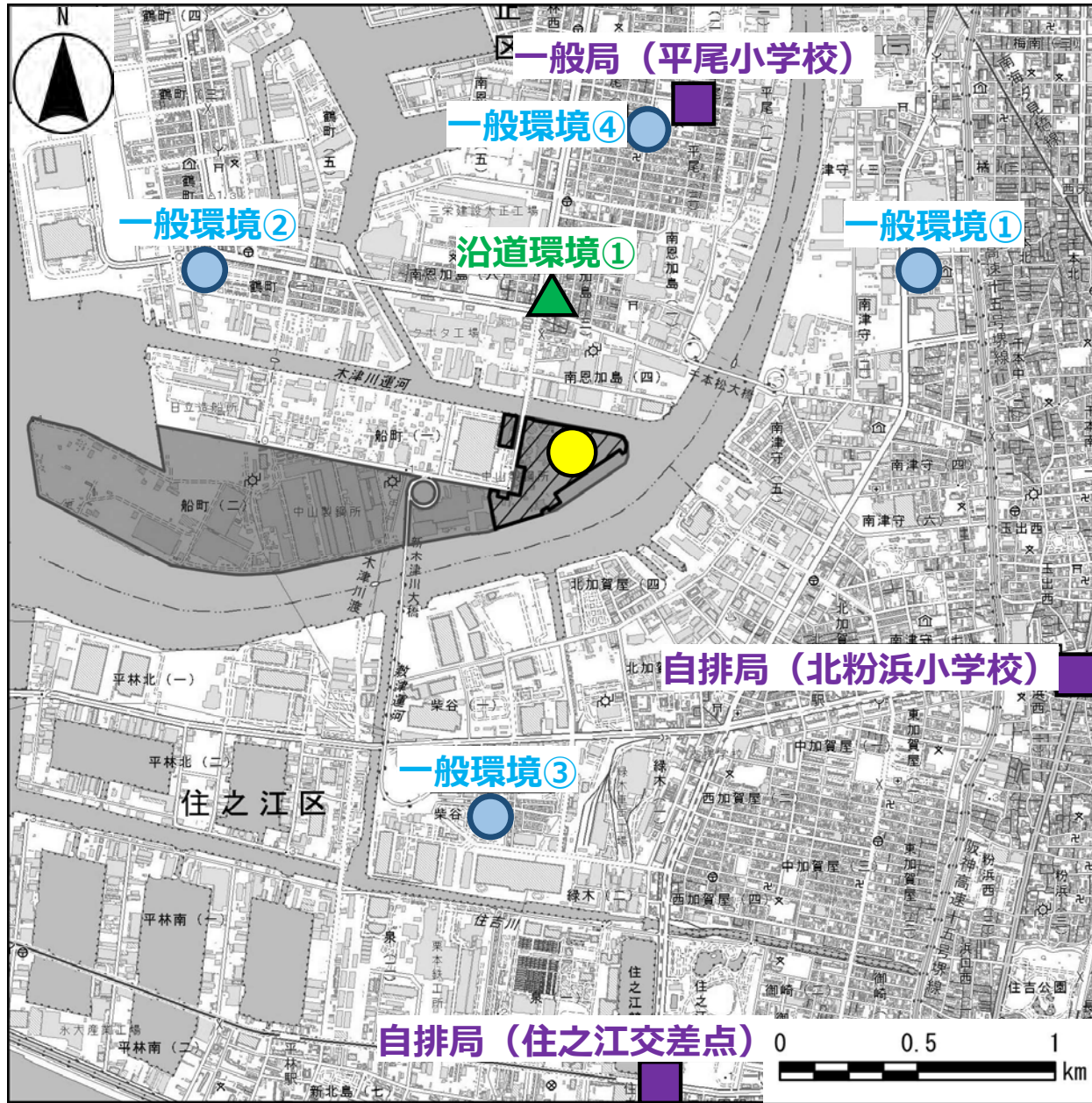
VI 地球環境

III 騒音・振動・低周波音








VII 景觀

IV 惡臭

# 現地調査地点（気象・大気質）

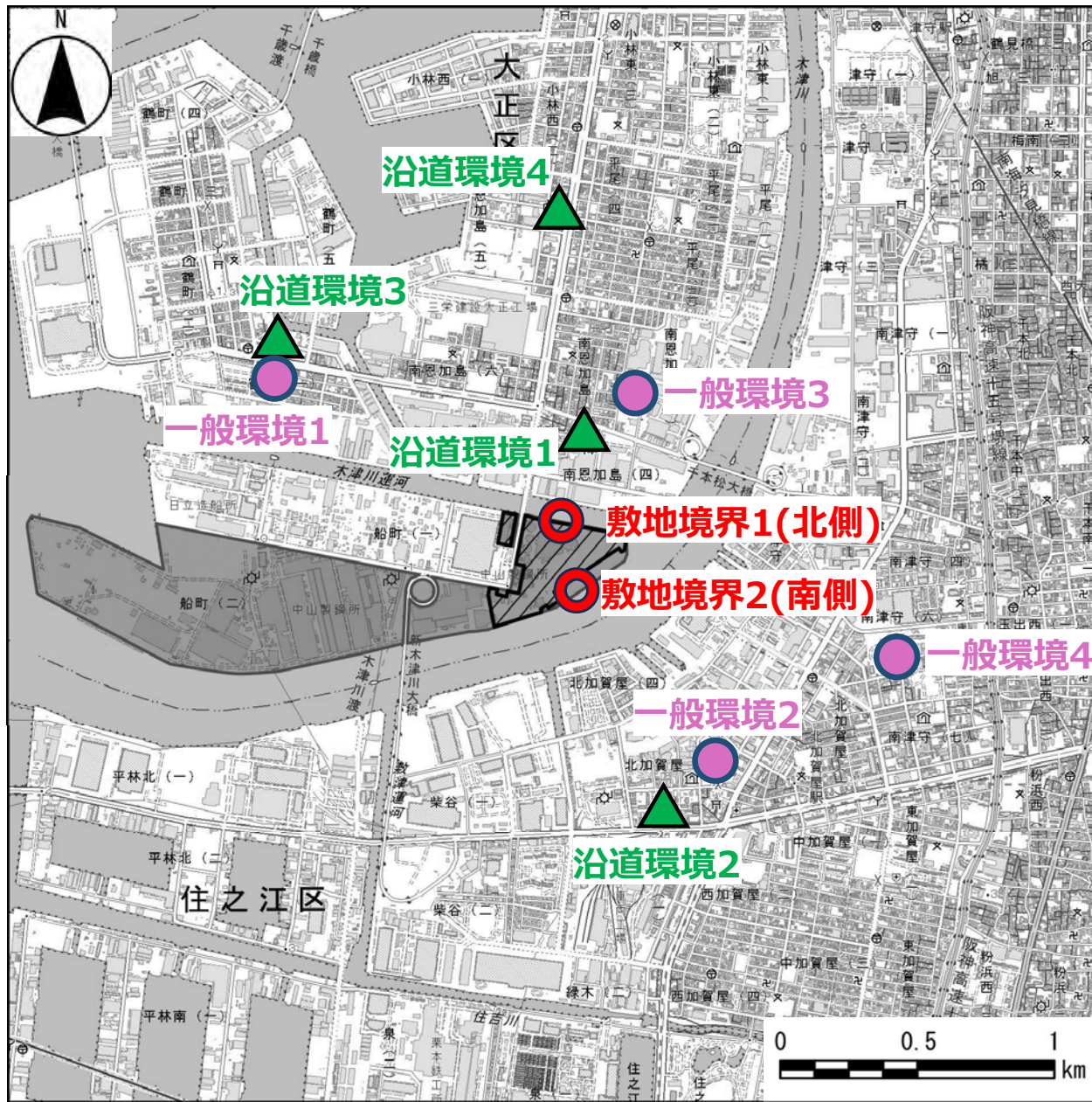


凡例

-  事業計画地
-  中山製鋼所船町工場
-  大気質通年調査（NOx、SPM）  
（一般環境①）
-  大気質短期調査（Hg, 重金属,  
ダイオキシン類）  
（一般環境①～④）
-  大気質通年調査（NOx、SPM）  
（沿道環境①）
-  大気汚染常時監視測定局  
（NOx、SPM）一般局（平尾小学校）  
（NOx、SPM）自排局（北粉浜小学校）  
（Nox）自排局（住之江交差点）
-  気象（地上気象、高層気象）調査地点  
（1地点）

この地図は、国土地理院の電子地形図25000をもとに作成しました。

# 現地調査地点（騒音・振動・低周波音）



凡例



事業計画地



中山製鋼所船町工場



騒音・振動調査地点  
(敷地境界1~2)



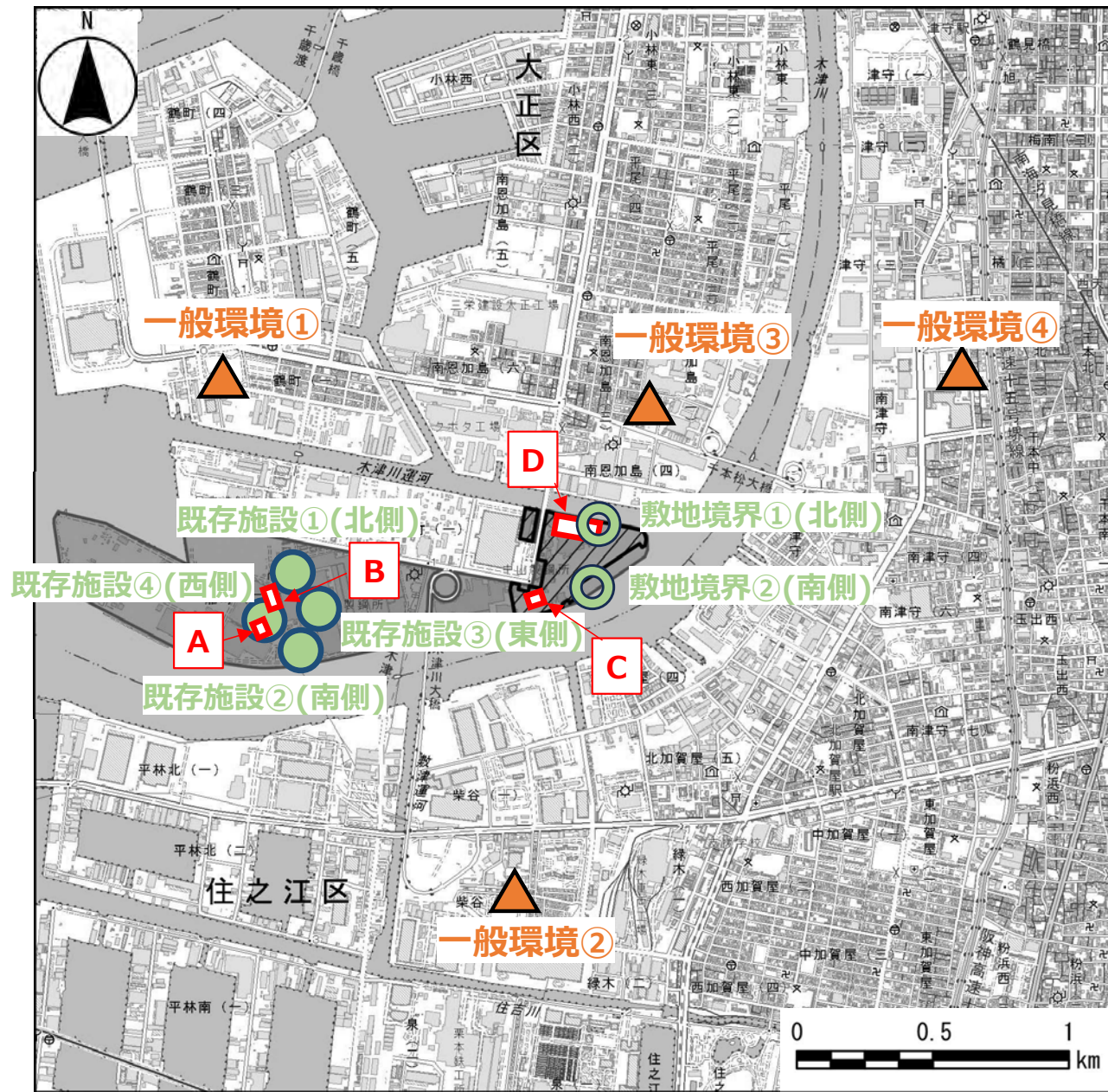
騒音・振動・低周波調査地点  
(一般環境1~4)



騒音・振動調査地点  
(沿道環境1~4)

この地図は、国土地理院の電子地形図2500をもとに作成しました。

# 現地調査地点 (悪臭)



## 凡例



事業計画地



中山製鋼所船町工場



悪臭調査地点  
(敷地境界①～②)



悪臭調査地点  
(一般環境①～④)



悪臭調査地点  
(既存施設①～④)



集塵機排出口 (現状)



電気炉工場内スクラップヤード (現状)



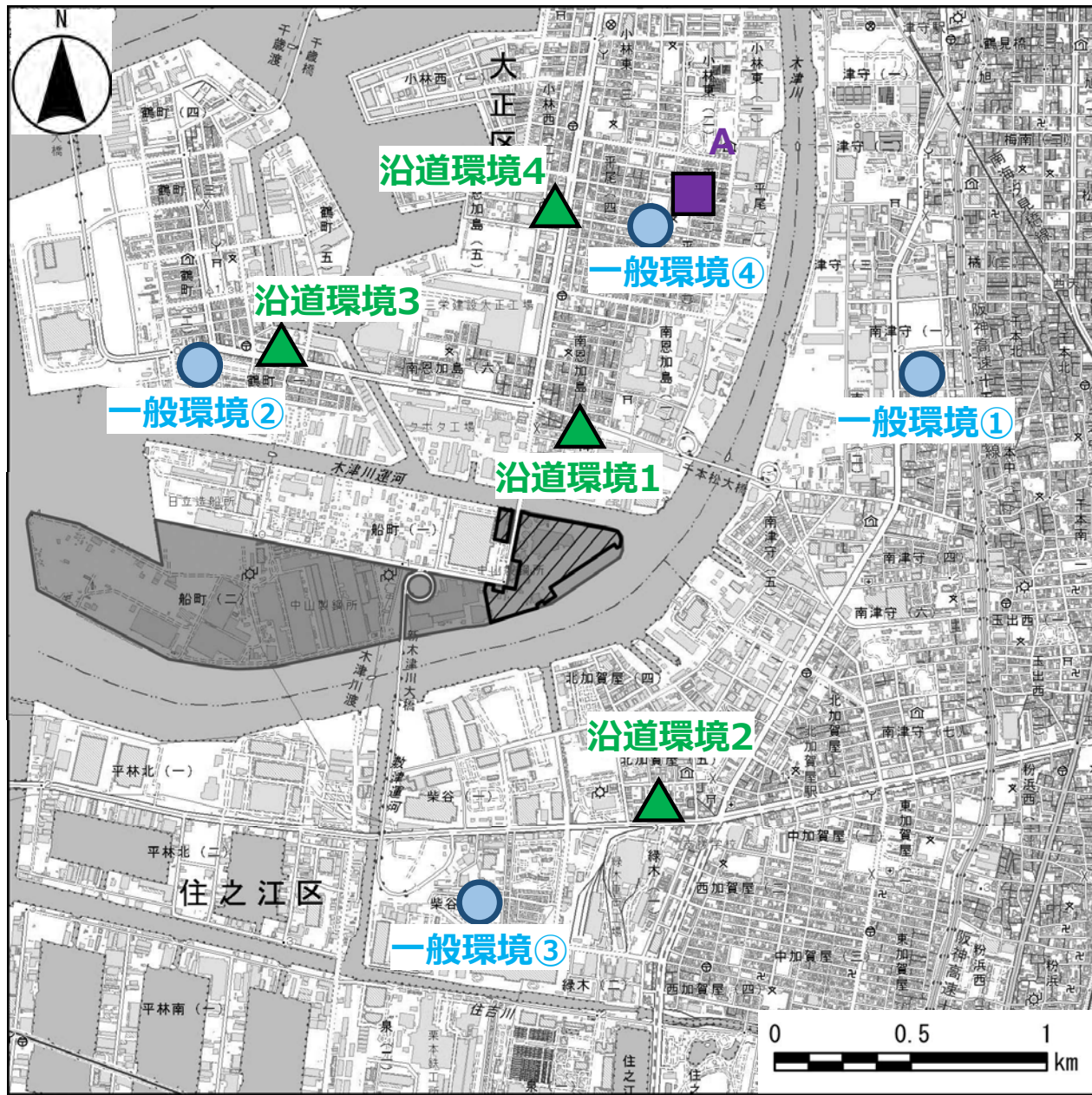
集塵機排出口 (将来)








スクラップヤード (将来)

この地図は、国土地理院の電子地形図2500をもとに作成しました。

# 予測地点 (大気質)

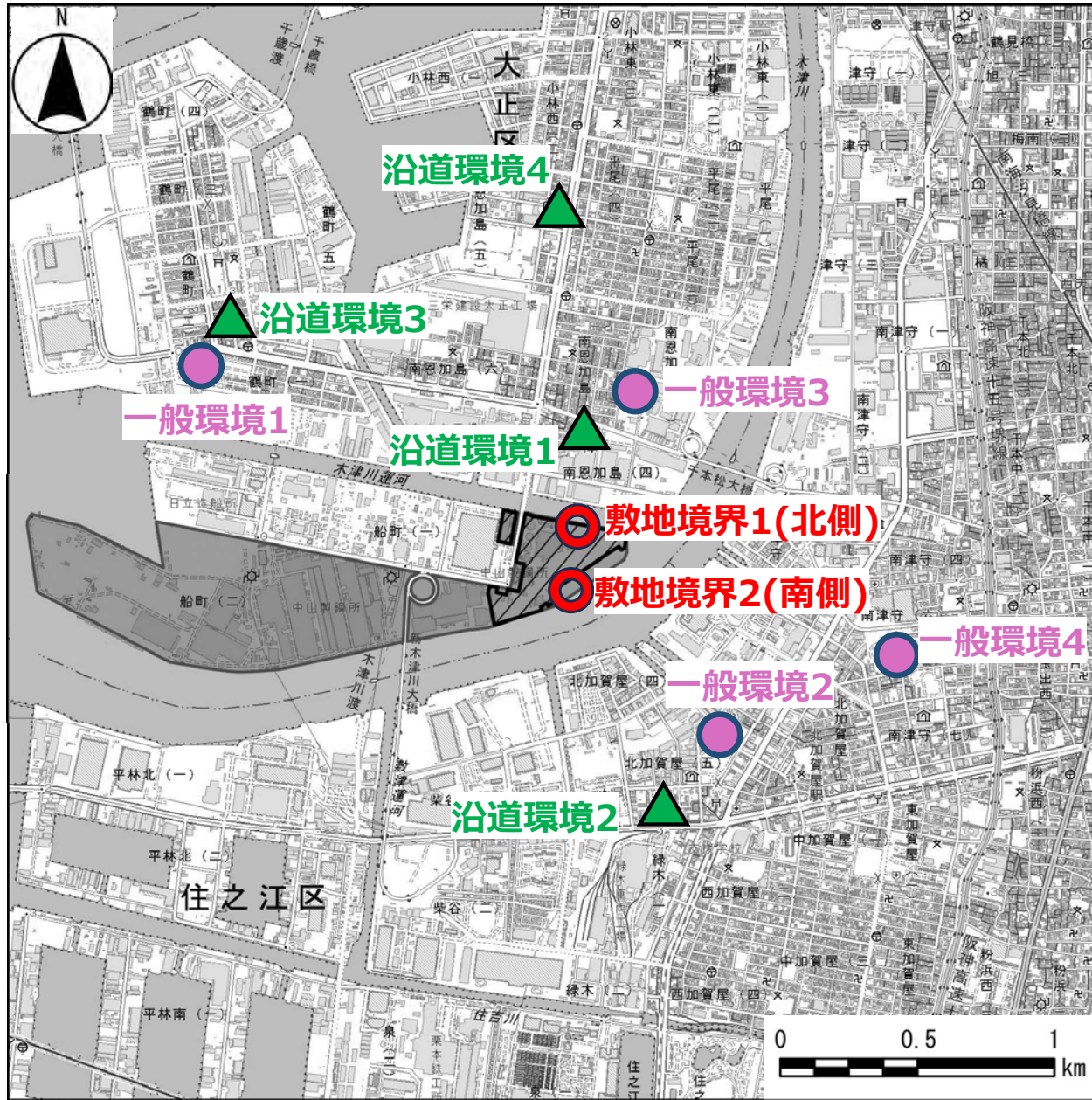


凡例

-  事業計画地
-  中山製鋼所船町工場
-  大気質予測地点 (一般環境①～④)
-  大気質予測地点 (沿道環境1～4)
-  大気汚染常時監視測定局 一般局 (平尾小学校) (A)

この地図は、国土地理院の電子地形図2500をもとに作成しました。

# 予測地点（騒音・振動・低周波音）



凡例



事業計画地



中山製鋼所船町工場



騒音・振動予測地点  
(敷地境界1~2)



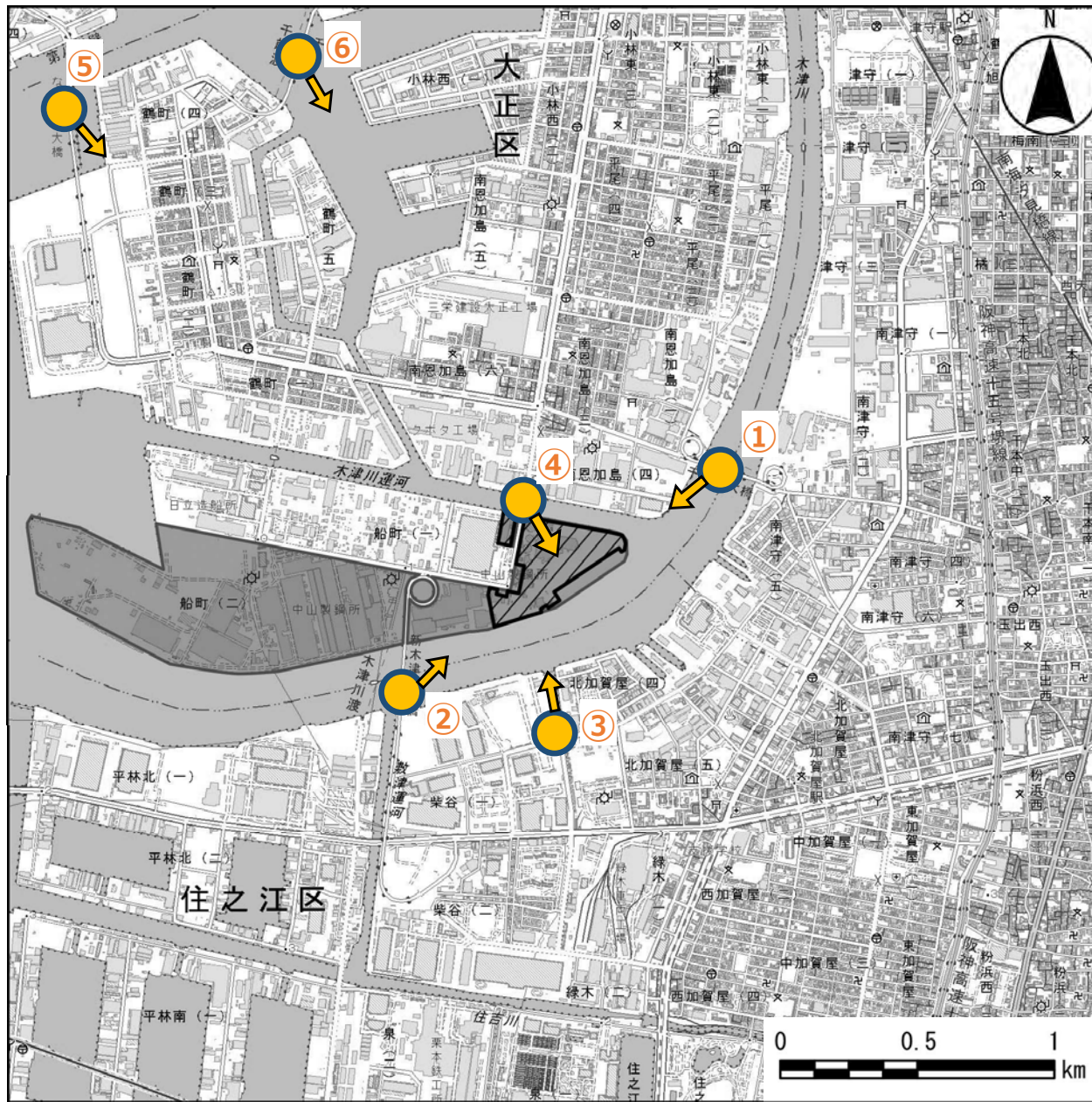
騒音・振動・低周波音予測地点  
(一般環境1~4)



騒音・振動予測地点  
(沿道環境1~4)

この地図は、国土地理院の電子地形図2500をもとに作成しました。

# 予測地点（景観）



凡例



事業計画地



中山製鋼所船町工場



景観予測地点  
(①～⑥)

- ① 千本松大橋
- ② 新木津川大橋
- ③ 柴谷運河
- ④ 大船橋
- ⑤ なみはや大橋
- ⑥ 千歳橋



撮影方向

この地図は、国土地理院の電子地形図2500をもとに作成しました。

## I 大気質（環境影響評価項目）

## ◆環境影響評価項目

環境影響評価項目		環境影響要因					
項目	細項目	施設の存在	施設の利用		建設・解体工事中		
		建築物の存在	施設の供用	施設関連車両の走行	建設機械の稼働	工事関連車両の走行	土地の改変
大気質	浮遊粒子状物質		○	○	○	○	
	二酸化窒素		○	○	○	○	
	水銀		○				
	浮遊粉じん中の重金属		○				
	ダイオキシン類		○				

注 ○：選定項目

## I 大気質（施設の利用による影響）

### ◆施設の供用により発生する煙突排出ガスの予測結果（年平均値） （単位：ppm）

予測地点	窒素酸化物の年平均値				二酸化窒素		
	本事業の 寄与濃度 ①	バックグラ ウンド濃度 ②	環境濃度 ③=①+②	寄与率 ①/③ (%)	年平均値	日平均値の 年間98%値	環境保全 目標値
最大着地 濃度地点	0.00016	0.018	0.01816	0.9	0.0141	0.033	0.04~ 0.06以下

（単位：mg/m<sup>3</sup>）

予測地点	浮遊粒子状物質の年平均値				浮遊粒子状物質	
	本事業の 寄与濃度 ①	バックグラ ウンド濃度 ②	環境濃度 ③=①+②	寄与率 ①/③ (%)	日平均値の 2%除外値	環境保全 目標値
最大着地 濃度地点	0.00057	0.018	0.01857	3.1	0.044	0.10以下

- いずれの項目についても、予測地点において環境保全目標値を満足していると予測されました。

## I 大気質（施設の利用による影響）

### ◆施設の供用により発生する煙突排出ガスの予測結果（年平均値）

地点：最大着地濃度地点

項目	単位	本事業の 寄与濃度 ①	バックグラウンド 濃度②	環境濃度 ③=①+②	寄与率 ①/③ (%)	環境保全 目標値
ダイオキシン類	pg-TEQ/m <sup>3</sup>	0.00143	0.029	0.03043	4.7	0.6以下
水銀	μg/m <sup>3</sup>	0.00006	0.0015	0.00156	3.8	0.04以下
ニッケル	μg/m <sup>3</sup>	0.00029	0.0085	0.00879	3.3	0.025以下
マンガン	μg/m <sup>3</sup>	0.00143	0.069	0.07043	2.0	0.14以下

- いずれの項目についても、予測地点において環境保全目標値を満足していると予測されました。

## I 大気質（施設の利用による影響）

### ◆施設の供用により発生する煙突排出ガスの予測結果（1時間値）

気象条件	本事業の 寄与濃度 ①	バックグラウンド 濃度 ②	環境濃度 ③=①+②	寄与率 ①/③ (%)	環境保全 目標値
	<b>二酸化窒素濃度（1時間値, 単位：ppm）</b>				
一般的な気象条件時	0.01668	0.078	0.095	17.6	0.1~0.2 以下
上層逆転出現時	0.02145	0.078	0.099	21.6	
煙突ダウンウォッシュ時	0.02078	0.078	0.099	21.0	
建物ダウンウォッシュ時	0.01670	0.078	0.095	17.6	
フミゲーション時	—	—	—	—	
	<b>浮遊粒子状物質濃度(1時間値, 単位：mg/m<sup>3</sup>)</b>				
一般的な気象条件時	0.05838	0.124	0.182	32.0	0.20 以下
上層逆転出現時	0.07508	0.124	0.199	37.7	
煙突ダウンウォッシュ時	0.07272	0.124	0.197	37.0	
建物ダウンウォッシュ時	0.05843	0.124	0.182	32.0	
フミゲーション時	—	—	—	—	

注：逆転層崩壊に伴うフミゲーション時は、すべて逆転層を突き抜けており、計算対象となる条件はありませんでした。

■いずれの項目についても、予測地点において環境保全目標値を満足していると予測されました。

## I 大気質（施設の利用による影響）

## ◆施設関連車両の走行により発生する排出ガスの予測結果（二酸化窒素）

予測時期	予測地点	窒素酸化物年平均値			二酸化窒素		寄与率	環境保全目標値	
		施設関連車両による寄与濃度	バックグラウンド濃度	環境濃度	年平均値	日平均値の年間98%値		環境基準値	大阪市環境基本計画の目標値
		(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)			
		①	②	③ = ① + ②					
施設供用時	沿道環境1	0.00067	0.027	0.02767	0.0188	0.037	2.4	1時間値の日平均値が0.04~0.06ppmのゾーン内またはそれ以下であること	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であること
	沿道環境2	0.00010	0.027	0.02710	0.0185	0.037	0.4		
	沿道環境3	0.00011	0.027	0.02711	0.0185	0.037	0.4		
	沿道環境4	0.00029	0.027	0.02729	0.0186	0.037	1.1		

■ いずれの項目についても、施設関連車両主要走行ルート沿道において環境保全目標値を満足していると予測されました。

## I 大気質（施設の利用による影響）

## ◆施設関連車両の走行により発生する排出ガスの予測結果（浮遊粒子状物質）

予測時期	予測地点	浮遊粒子状物質年平均値			日平均値 の2% 除外値	寄与率	環境保全 目標値
		施設関連 車両による 寄与濃度	バックグラウンド濃度	環境濃度			環境 基準値
		(mg/m <sup>3</sup> )	(mg/m <sup>3</sup> )	(mg/m <sup>3</sup> )	(mg/m <sup>3</sup> )	(%)	
		①	②	③=①+②	①/③ ×100		
施設 供用時	沿道 環境1	0.00002	0.020	0.02002	0.048	0.1	1時間値の 日平均値が 0.10mg/m <sup>3</sup> 以下で あること
	沿道 環境2	0.00000	0.020	0.02000	0.048	0.0	
	沿道 環境3	0.00000	0.020	0.02000	0.048	0.0	
	沿道 環境4	0.00001	0.020	0.02001	0.048	0.0	

■いずれの項目についても、施設関連車両主要走行ルート沿道において環境保全目標値を満足していると予測されました。

## I 大気質（工事の実施による影響）

## ◆建設機械の稼働により発生する排出ガスの予測結果

(単位：ppm)

予測地点	窒素酸化物の年平均値				二酸化窒素		
	本事業の 寄与濃度 ①	バックグラ ウンド濃度 ②	環境濃度 ③=①+②	寄与率 ①/③ (%)	年平均値	日平均値の 年間98%値	環境保全 目標値
最大着地 濃度地点	0.00091	0.018	0.01891	4.8	0.0145	0.034	0.04~ 0.06以下

(単位：mg/m<sup>3</sup>)

予測地点	浮遊粒子状物質（年平均値）				浮遊粒子状物質	
	本事業の 寄与濃度 ①	バックグラ ウンド濃度 ②	環境濃度 ③=①+②	寄与率 ①/③ (%)	日平均値の 2%除外値	環境保全 目標値
最大着地 濃度地点	0.00021	0.018	0.01821	1.2	0.043	0.10以下

■ いずれの項目についても、予測地点において環境保全目標値を満足していると予測されました。

# I 大気質（工事の実施による影響）

## ◆ 工事関連車両の走行により発生する排出ガスの予測結果（二酸化窒素）

予測時期	予測地点	窒素酸化物年平均値			二酸化窒素		寄与率	環境保全目標値	
		工事関連車両による寄与濃度	バックグラウンド濃度	環境濃度	年平均値	日平均値の年間98%値		環境基準値	大阪市環境基本計画の目標値
		(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)			
		①	②	③ = ① + ②			①/③ ×100		
工事最盛期	沿道環境1	0.00011	0.027	0.02711	0.0185	0.037	0.4	1時間値の日平均値が0.04～0.06ppmのゾーン内またはそれ以下であること	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であること
	沿道環境2	0.00005	0.027	0.02705	0.0185	0.037	0.2		
	沿道環境3	0.00003	0.027	0.02703	0.0185	0.037	0.1		
	沿道環境4	0.00009	0.027	0.02709	0.0185	0.037	0.3		

■ いずれの項目についても、工事関連車両主要走行ルート沿道において環境保全目標値を満足していると予測されました。

# I 大気質（工事の実施による影響）

## ◆ 工事関連車両の走行により発生する排出ガスの予測結果（浮遊粒子状物質）

予測時期	予測地点	浮遊粒子状物質年平均値			日平均値 の2% 除外値	寄与率	環境保全 目標値
		工事関連 車両による 寄与濃度	バックグラウンド濃度	環境濃度			環境 基準値
		(mg/m <sup>3</sup> )	(mg/m <sup>3</sup> )	(mg/m <sup>3</sup> )			
		①	②	③ = ① + ②			
工事最盛期	沿道 環境1	0.00000	0.020	0.02000	0.048	0.0	1時間値の 日平均値が 0.10mg/m <sup>3</sup> 以下であること
	沿道 環境2	0.00000	0.020	0.02000	0.048	0.0	
	沿道 環境3	0.00000	0.020	0.02000	0.048	0.0	
	沿道 環境4	0.00000	0.020	0.02000	0.048	0.0	

■ いずれの項目についても、工事関連車両主要走行ルート沿道において環境保全目標値を満足していると予測されました。

## II 土壌（環境影響評価項目）

### ◆環境影響評価項目

環境影響評価項目		環境影響要因					
項目	細項目	施設の存在	施設の利用		建設・解体工事中		
		建築物の存在	施設の供用	施設関連車両の走行	建設機械の稼働	工事関連車両の走行	土地の改変
	土壌						○

### ◆土地の実施による土壌予測結果

注 ○：選定項目

建設工事に伴い発生する濁水等については大阪府生活環境の保全等に関する条例に定める上乘せ排水基準、水質汚濁防止法に定める一般排水基準を満たしていることを確認した後に既設排水口から排出する計画であり、現地調査の結果に基づき、有害物質の対応も実施して排水基準（水質汚濁防止法に定める一般排水基準）を満たすことで汚染した水が拡散することはないと予測されました。

建設工事で発生し、場外処理が必要な汚染土壌は、「土壌汚染対策法」及び「大阪府生活環境の保全等に関する条例」に準拠し適正に処理します。

## Ⅲ 騒音・振動・低周波音（環境影響評価項目）

### ◆環境影響評価項目

環境影響評価項目		環境影響要因					
項目	細項目	施設の存在	施設の利 用		建設・解体 工 事 中		
		建築物の存在	施設の供用	施設関連車両の走行	建設機械の稼働	工事関連車両の走行	土地の改変
騒音	騒音レベル		○	○	○	○	
振動	振動レベル		○	○	○	○	
低周波音	低周波音音圧レベル		○				

注 ○：選定項目

## Ⅲ 騒音・振動・低周波音（施設の利用による影響）

### ◆施設の供用により発生する騒音の予測結果（敷地境界）

（単位：デシベル）

予測地点	時間区分	時間率騒音レベル (L <sub>A5</sub> )						環境保全目標値
		平日			休日			
		予測値	現況値	合成値	予測値	現況値	合成値	
敷地境界1	朝	63	53	63	63	44	63	(65)
	昼間	63	52	63	63	45	63	(70)
	夕	63	45	63	63	45	63	(65)
	夜間	60	41	60	60	45	60	(60)
敷地境界2	朝	54	50	56	54	46	55	(65)
	昼間	54	56	58	54	46	55	(70)
	夕	54	47	55	54	46	55	(65)
	夜間	53	45	54	53	43	53	(60)

■ いずれの地点・時間区分についても、環境保全目標値を満足していると予測されました。

## Ⅲ 騒音・振動・低周波音（施設の利用による影響）

### ◆施設の供用により発生する騒音の予測結果（一般環境）（単位：デシベル）

予測地点	時間区分	等価騒音レベル (L <sub>Aeq</sub> )						環境保全目標値
		平日			休日			
		予測値	現況値	合成値	予測値	現況値	合成値	
一般環境1	昼間	36	53	53	36	50	50	55
	夜間	36	47	47	36	43	44	45
一般環境2	昼間	43	52	53	43	52	53	60
	夜間	42	47	48	42	45	47	50
一般環境3	昼間	41	50	51	41	48	49	60
	夜間	40	40	43	40	36	42	50
一般環境4	昼間	39	52	52	39	50	50	60
	夜間	38	43	44	38	43	44	50

- 施設の供用により発生する騒音の予測結果は、ほとんどの地点・時間区分で環境保全目標値を満足しています。一般環境1の平日の夜間は環境基準を上回っていますが、現況値が上回っており、本事業の影響により、騒音値を押し上げるものではないと予測されました。

## Ⅲ 騒音・振動・低周波音（施設の利用による影響）

### ◆施設の供用により発生する振動の予測結果（敷地境界）

（単位：デシベル）

予測地点	時間区分	振動レベル (L <sub>10</sub> )						環境保全目標値
		平日			休日			
		予測値	現況値	合成値	予測値	現況値	合成値	
敷地境界1	昼間	51	32	51	51	<25	51	(70)
	夜間	39	<25	39	39	<25	39	(65)
敷地境界2	昼間	42	28	42	42	<25	42	(70)
	夜間	38	<25	38	38	<25	38	(65)

■ いずれの地点・時間区分についても、環境保全目標値を満足していると予測されました。

## Ⅲ 騒音・振動・低周波音（施設の利用による影響）

### ◆施設の供用により発生する振動の予測結果（一般環境）

（単位：デシベル）

予測地点	時間区分	振動レベル (L <sub>10</sub> )						感覚閾値
		平日			休日			
		予測値	現況値	合成値	予測値	現況値	合成値	
一般環境1	昼間	<10	45	45	<10	38	38	55
	夜間	<10	35	35	<10	29	29	
一般環境2	昼間	<10	40	40	<10	33	33	
	夜間	<10	33	33	<10	31	31	
一般環境3	昼間	<10	37	37	<10	28	28	
	夜間	<10	28	28	<10	<25	<25	
一般環境4	昼間	<10	36	36	<10	31	31	
	夜間	<10	31	31	<10	27	27	

■ いずれの地点・時間区分についても、環境保全目標値を満足していると予測されました。

## Ⅲ 騒音・振動・低周波音（施設の利用による影響）

### ◆施設の供用による低周波音予測結果（G特性音圧レベル）

（単位：デシベル(G)）

予測地点	時間区分	G特性音圧レベル						心身に係る苦情に関する参照値
		平日			休日			
		到達音圧レベル ( $L_{Geq}$ )	現況音圧レベル ( $L_{Geq}$ )	総合音圧レベル ( $L_{Geq}$ )	到達音圧レベル ( $L_{Geq}$ )	現況音圧レベル ( $L_{Geq}$ )	総合音圧レベル ( $L_{Geq}$ )	
一般環境1	昼間	62	70	71	62	65	67	92
	夜間	62	66	68	62	63	66	
一般環境2	昼間	64	71	72	64	68	70	
	夜間	64	68	70	64	67	69	
一般環境3	昼間	68	70	72	68	60	69	
	夜間	68	64	70	68	58	68	
一般環境4	昼間	61	67	68	61	63	65	
	夜間	61	62	65	61	59	63	

- 総合G特性音圧レベルの予測結果は、いずれの時間区分においても、「低周波音問題対応の手引書」（環境省、平成16年）に記載されている心身に係る苦情に関する参照値である92dB(G)を下回ると予測されました。

## Ⅲ 騒音・振動・低周波音（施設の利用による影響）

### ◆施設関連車両の走行による道路交通騒音予測結果

（単位：デシベル）

予測地点	時間区分	等価騒音レベル（ $L_{Aeq}$ ）				環境保全目標値
		平日		休日		
		実測値	予測値	実測値	予測値	
沿道環境1	昼間	65.2	65.4	61.3	61.8	70
沿道環境2	昼間	68.6	68.7	66.6	66.6	70
沿道環境3	昼間	67.6	67.9	64.7	65.0	70
沿道環境4	昼間	67.7	67.8	64.6	64.9	70

■ いずれの地点・時間区分についても、環境保全目標値を満足していると予測されました。

## Ⅲ 騒音・振動・低周波音（施設の利用による影響）

### ◆施設関連車両の走行による道路交通振動予測結果

（単位：デシベル）

予測地点	時間区分	時間率振動レベル（80%レンジ上端値 $L_{10}$ ）				環境保全目標値
		平日		休日		
		実測値	予測値	実測値	予測値	
沿道環境1	昼間	42.9	43.3	34.7	35.9	70
沿道環境2	昼間	50.8	50.8	44.4	44.4	70
沿道環境3	昼間	46.7	46.7	40.6	40.8	65
沿道環境4	昼間	40.4	40.5	31.9	32.5	70

■ いずれの地点・時間区分についても、環境保全目標値を満足していると予測されました。

## Ⅲ 騒音・振動・低周波音（工事の実施による影響）

### ◆ 建設機械の稼働による騒音の予測結果（敷地境界・平日） （単位：デシベル）

予測地点	時間区分	騒音レベル ( $L_{A5}$ )			環境保全 目標値
		予測値	現況値	合成値	
敷地境界1	昼間	82	52	82	(85)
敷地境界2	昼間	82	56	82	(85)

- いずれの予測地点においても、環境保全目標値を満足していると予測されました。

### ◆ 建設機械の稼働による騒音の予測結果（一般環境・平日） （単位：デシベル）

予測地点	時間区分	騒音レベル ( $L_{Aeq}$ )			環境保全 目標値
		予測値	現況値	合成値	
一般環境1	昼間	45	53	54	55
一般環境2	昼間	46	52	53	60
一般環境3	昼間	50	50	53	60
一般環境4	昼間	43	52	53	60

- いずれの予測地点においても、環境保全目標値を満足していると予測されました。

## Ⅲ 騒音・振動・低周波音（工事の実施による影響）

### ◆ 建設機械の稼働による振動の予測結果（敷地境界・平日）（単位：デシベル）

予測地点	時間区分	振動レベル (L <sub>10</sub> )			環境保全 目標値
		予測値	現況値	合成値	
敷地境界1	昼間	62	32	62	(75)
敷地境界2	昼間	63	<25	63	(75)

- いずれの予測地点においても、環境保全目標値を満足していると予測されました。

### ◆ 建設機械の稼働による振動の予測結果（一般環境・平日）（単位：デシベル）

予測地点	時間区分	振動レベル (L <sub>10</sub> )			環境保全 目標値
		予測値	現況値	合成値	
一般環境1	昼間	<25	45	45	55
一般環境2	昼間	<25	40	40	
一般環境3	昼間	<25	37	37	
一般環境4	昼間	<25	36	36	

- いずれの予測地点においても、環境保全目標値を満足していると予測されました。

## Ⅲ 騒音・振動・低周波音（工事の実施による影響）

### ◆ 工事関連車両の走行による道路交通騒音予測結果（平日）（単位：デシベル）

予測地点	時間区分	等価騒音レベル（ $L_{Aeq}$ ）		
		実測値	予測値	環境保全目標値
沿道環境1	昼間	65.2	65.3	70
沿道環境2	昼間	68.6	68.7	70
沿道環境3	昼間	67.6	67.8	70
沿道環境4	昼間	67.7	67.8	70

■ いずれの予測地点においても、環境保全目標値を満足していると予測されました。

### ◆ 工事関連車両の走行による道路交通振動予測結果（平日）（単位：デシベル）

予測地点	時間区分	時間率振動レベル（80%レンジ上端値 $L_{10}$ ）		
		実測値	予測値	環境保全目標値
沿道環境1	昼間	42.9	43.0	70
沿道環境2	昼間	50.8	50.8	70
沿道環境3	昼間	46.7	46.7	65
沿道環境4	昼間	40.4	40.4	70

■ いずれの予測地点においても、環境保全目標値を満足していると予測されました。

## IV 悪臭（環境影響評価項目）

### ◆環境影響評価項目

環境影響評価項目		環境影響要因					
項目	細項目	施設の存在	施設の利用		建設・解体工事中		
		建築物の存在	施設の供用	施設関連車両の走行	建設機械の稼働	工事関連車両の走行	土地の改変
悪臭	臭気指数		○				

注 ○：選定項目

## IV 悪臭（施設の供用による影響）

### ◆施設の供用による悪臭予測結果

予測条件	臭気指数 (臭気濃度)	最大値出現 風下距離(m)	環境保全 目標値
比較的高濃度が生じやすい気象条件	10未満 (0.61)	170	臭気指数 10
最多年間出現条件	10未満 (0.00)	9,990	
上層逆転出現時	10未満 (0.71)	1,000	
煙突ダウンウォッシュ時	10未満 (0.69)	530	
建物ダウンウォッシュ時	10未満 (0.55)	800	

■ いずれの予測条件についても、環境保全目標値を満足していると予測されました。

## V 廃棄物・残土（環境影響評価項目）

### ◆環境影響評価項目

環境影響評価項目		環境影響要因					
項目	細項目	施設の存在	施設の利用		建設・解体工事中		
		建築物の存在	施設の供用	施設関連車両の走行	建設機械の稼働	工事関連車両の走行	土地の改変
廃棄物・残土	一般廃棄物		○				
	産業廃棄物		○				○
	残土						○

注 ○：選定項目

## V 廃棄物・残土（施設の利用、工事による影響）

### ◆施設の利用による廃棄物発生量予測結果

- ・施設の供用における産業廃棄物発生量は71,395t/年ですが、産業廃棄物の内、鋳さい、耐火物レンガ(ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず)、汚泥、廃油、油泥は100%リサイクルします。また、ばいじん中の40%は亜鉛として回収してリサイクルします。
- ・一般廃棄物の発生量は38t/年ですが、分別をしっかりと行いリサイクル可能品目は再利用できるように努めます。

### ◆工事の実施による廃棄物発生量予測結果

- ・工事の実施に伴う産業廃棄物の発生量は、金属くずが2,803t、木くずが17t、ガラス・陶磁器くずが280t、がれき類が28,637t、安定型建設混合廃棄物が44tと予測していますが、リサイクルが可能となるよう分別を実施します。
- ・工事によるコンクリート塊が27,333t、掘削残土が159,618t発生すると予測していますが、コンクリート塊は可能な限り、破碎して造成工事で構内使用し、掘削残土の内、152,552tは造成工事で構内使用する計画としています。
- ・汚染土壌は指定区域内で使用する計画としています。

## VI 地球環境（環境影響評価項目）

### ◆環境影響評価項目

環境影響評価項目		環境影響要因					
項目	細項目	施設の存在	施設の利 用		建設・解体 工 事 中		
		建築物の存在	施設の供用	施設関連車両の走行	建設機械の稼働	工事関連車両の走行	土地の改変
地球環境	温室効果ガス		○				

注 ○：選定項目

### ◆施設の利用による二酸化炭素排出量の予測結果

- ・施設稼働に伴うCO<sub>2</sub>排出量は、施設最大稼働時には、189.0kt-CO<sub>2</sub>増加する見込みです。
- ・新設するスクラップヤードの屋根に太陽光発電パネルを設置し発電した電力を自社で使用することで、CO<sub>2</sub>排出量の増加は年間188.6kt-CO<sub>2</sub>に抑制されます。

## VII 景観（環境影響評価項目）

### ◆環境影響評価項目

環境影響評価項目		環境影響要因					
項目	細項目	施設の存在	施設の利 用		建設・解体 工 事 中		
		建築物の存在	施設の供用	施設関連車両の走行	建設機械の稼働	工事関連車両の走行	土地の改変
景観		○					

注 ○：選定項目

# IX 景観（施設の存在による影響）

## ◆千本松大橋からの景観の予測結果

現況



施設完成後



## ◆新木津川大橋からの景観の予測結果

現況



施設完成後



## IX 景観（施設の存在による影響）

### ◆柴谷運河からの景観の予測結果

現況



施設完成後

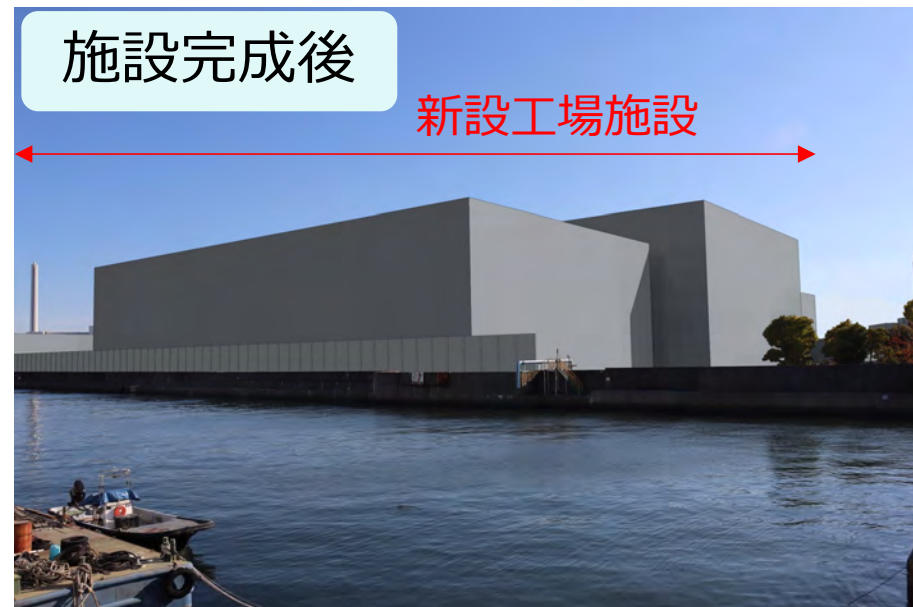


### ◆大船橋からの景観の予測結果

現況



施設完成後



# IX 景観（施設の存在による影響）

## ◆ なみはや大橋からの景観の予測結果

現況



施設完成後



## ◆ 千歳橋からの景観の予測結果

現況



施設完成後



## 総合評価

**大気質、土壌、騒音、振動、低周波音、悪臭、廃棄物・残土、地球環境、景観について、事業の実施が事業計画地周辺的环境に及ぼす影響について予測を行った結果、いずれの項目についても環境保全目標を満足するものと評価します。**

## 事後調査の方針

◆本事業の実施にあたっては、事後調査を行うことを計画しています。

### ＜工事中の事後調査＞

環境項目	調査項目	調査地点	調査時期
大気質	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設機械の機種、台数、稼働時間の把握</li> <li>工事用車両の車種、台数、走行ルート of 把握</li> </ul>	事業計画地	建設工事の 期間中
土壌	<ul style="list-style-type: none"> <li>汚染土壌、非汚染土壌の発生量及び処理量の実績の把握</li> <li>追加調査による発生量予測の精査</li> </ul>	事業計画地	建設工事の 期間中
騒音	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設作業騒音</li> <li>工事用車両及び搬出入車両の台数</li> </ul>	事業計画地 敷地境界2地点	建設工事の 最盛期
振動	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設作業振動</li> <li>工事用車両及び搬出入車種の台数</li> </ul>		
廃棄物・ 残土	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物の種類と発生量及び性状、処分量及びリサイクル状況の把握</li> <li>残土の発生量及び有効利用率の把握</li> </ul>	事業計画地	建設工事の 期間中

## 事後調査の方針

◆本事業の実施にあたっては、事後調査を行うことを計画しています。

### ＜施設利用時の事後調査＞

環境項目	調査項目	調査地点	調査時期
大気質	・煙突排出ガス中の汚染物質濃度	煙突の煙道	最大稼働時期とその6ヶ月後
	・大気質の環境濃度	事業計画地の周辺地域 1地点以上	最大稼働時
	・搬出入車両の車種、台数、走行ルート of 把握	事業計画地	最大稼働時
騒音	・施設の騒音レベル、一般環境騒音レベル	事業計画地 敷地境界2地点 周辺地域1地点	最大稼働時
振動	・施設の振動レベル、一般環境振動レベル		
低周波音	・一般環境の低周波音の音圧レベル		
悪臭	・煙突排出ガス中の臭気指数（臭気濃度） ・敷地境界の臭気指数（臭気濃度）	煙突の煙道 及び敷地境界	最大稼働時 （夏季）
廃棄物	・産業廃棄物の種類と発生量及び性状、処分量及びリサイクル状況の把握 ・一般廃棄物の発生量の把握	事業計画地	施設供用後の1年間
地球環境	・スクラップ処理量、燃料（コークス、無煙炭、都市ガス）と二酸化炭素排出量と太陽光発電量の把握	事業計画地	施設供用後の1年間